

# キャンパスレポーター 研究室訪問

## 第4回

### ヨーロッパ地域経済史 城戸照子教授

レポーターの大分大学経済学部3年の安部泰記です。大分鶴崎高校3年の佐々木愛美と三浦早央里です。私たちは平成21年度後期の学問探検ゼミで一緒に学びました。今回は私たち3人が城戸先生の研究室を訪問して、先生の学問内容やゼミ活動、城戸先生ご自身のことについてインタビューします。



#### ゼミのテーマはEU

**安部**：まず前半に先生のゼミのことを、後半に先生個人のことについてお話を聞きたいと思います。よろしくをお願いします。

早速ですが、先生のゼミではどのようなことをされているのでしょうか？

**城戸**：私のゼミでは主に EU（欧州連合）をテーマとして、ヨーロッパの社会経済を勉強しています。その際、歴史的な経緯をふまえて欧州連合の統合の目的を知り、現在のヨーロッパの問題を考えるようにしてい

ます。ただ EU のことは高校までそんなに勉強してないので、皆さんにとってはもっとなじみ深い、ドイツやフランスといった国単位の事情に勉強の重心が移ることもあります。それから EU の現状として、移民が多いのです。出身国以外で勉強したり仕事したりする EU 市民は多いですし、また EU 加盟国以外の国から移民した人たちも多くなります。こうした人々が移住先の国でどのような市民権をもって生活しているか、知識を深めています。

**三浦**：ゼミの学生さんには普段どんな話をされていますか？

**城戸**：今のヨーロッパでのトピックス、何が起きているかというところから話を始めます。ゼミ学生には時々宿題を出して、新聞やインターネットのニュースから最近報道された EU 関係の話を、順番に報告してもらいこともあります。そうしたら趣味に応じて、サッカーの話とか、ユーロの話、イギリス王室の結婚の話とか、色々話題がでますね。

**佐々木**：ゼミに入るまでに高校と大学1、2年生の間にどのような勉強の準備が必要ですか？

**城戸**：それがないとだめっていうことはないですが、大学で第2外国語として、英語以外にもう一つ外国語を勉強する際に、フランス語かドイツ語など、そういうヨーロッパ系の言語を選択した方がいいかなと思

経済学部  
地域システム学科  
ヨーロッパ地域経済史  
城戸照子教授

#### プロフィール



九州大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。

担当授業は比較地域分析Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱなど。主な研究テーマは中世イタリア社会経済史。趣味はミステリ読書。

います。

**安部**：ということは先生のゼミではそういう語学を使っていることですか？

**城戸**：ゼミでは日本語文献を読むことが多くて、なかなかフランス語で発表された論文などを読むまでには至らないのですが。ただ、今は、レポートや論文を書くとき、みんなインターネットでいろんな情報を調べますよね。たとえキーワードだけでも原語が分かれば、その際にフランス語や英語のサイト（政府やEU公式機関などの公式サイトですが）で、新しいデータを調べられるんですよ。多少英語のホームページも見てみようかなという気軽さでチャレンジできる語学力があれば、いいですね。写真がたくさん掲載されたサイトもありますし。語学がすごく嫌って言ったらせっかくのEUのことを勉強する窓口がちょっと狭くなるので、そのアレルギーがない方がいいかと思えます。でもみんな英語あまり好きじゃないですか？どうですか？

**三浦・佐々木**：うーん、ちょっと・・・。

**城戸**：ちょっとね（笑）。フランス語、ドイツ語のキーワードだけでも原語で知っているといいですね。日本語の文献を読むときも、すごく大事なので。そういう意味では語学の勉強が大事ですよっていうのは、語学や文化を通して、好奇心を持ってる方がいいなっていう感じでしょうか。たとえスポーツ選手の話でもブランドの名前だけであっても。

### 中世イタリアにEU思想の芽があった

**安部**：では続いて、先生ご自身の専門分野と研究されていることをわかりやすく教えてください。

**城戸**：はい。今皆さんとこうやってEUの話をして、ヨーロッパが専門ということは想像がつくと思うんですが、実はですね私の1番の専門は経済史で、ヨーロッパの経済史ではあるんですが、なんとその時代がですね、ほぼ平安時代くらい。

**全員**：えーすごい！

**城戸**：皆さんが受験の時に「白紙（894）に戻す遣唐使」で894年とか覚えちゃったよね？ そのくらいのイタリアの時代なんです。イタリアもね、イタリアの北の方の、1番大きい都市でいうとミラノとかあのへんの近くのところをやっています。そういうのが専門なのにどうしてEUの話をしてるんだってことなんですけど、基本的には経済史を研究していますので、時代が違って共通する問題があるんですね。政治制度と流通問題とか、在地権力と市場の開催の関係とか、農村と都市の相互依存関係などね。

もちろん日本史のその時代だって中国と交易して色々な文化を導入して頑張ってたわけですから、皆さんも想像がつくと思うけど、ヨーロッパも古い時代だからといって人間の生活範囲がものすごく狭いものではなかったんです。農民は確かにあんまり遠くには行けないですけど納税や開墾のために移動はしていますし、商業は必要だし（流通税という関税もあったし）、都市があつて学者もたくさんいて留学したりいろいろ動いてます。

一番のエリート層のキリスト教の聖職者たちは、ローマを中心としてヨーロッパ中に広がったネットワークを作つて、その人たちはヨーロッパ中でたくさん会議を開いているんですね。王や皇帝も自分の所領や領土を巡回していて、想像以上に人やモノの移動とか文化の交流があります。

私たちの知ってる近代国家はないけど、国のつぼみみたいなものがあちこちいっぱいあつて、それがどんどん成長していつてる時期。近代国家の土台や今の超国家的なEUの形成の一部を支える思想が、すでにそのころからあるんですね。

で、農業史や商業史を考えても、その頃の社会と経済の関係の中では、その主体が在地貴族である領主や、



修道院や教会といったキリスト教の組織だったりするんです。中世封建社会の主体となる在地領主が荘園を

経営していて、徴税したり、裁判権を持って裁判をしたりしている。造幣権は国王大権だけれど、中世初期には、貨幣を造幣した司教もいます。今の時代にもあるものが、今と違った方法で違った主体が運営している。そこが面白いところですね。

**安部**：はい。わかりました。

**佐々木**：では、研究内容のキーワードはどのような基準で選ばれているんですか？

**城戸**：キーワードには、時代と地域、あとはどういう特別なテーマを設定しているかという3つのポイントがありますね。中世という時代は、西暦600年代から1,400年代ぐらいまでの感じです。私にとって一番面白いのが10世紀後半です。地域としては北イタリアのポー河流域、テーマとしては都市＝農村関係のなかの荘園制ですね。農業・牧畜という経済活動の中で、誰が土地所有者か、誰が耕作者か、その中で税金がどう納められているかということを見ると、農業経済と農村の姿や、都市と農村の関係が良くわかるので、そういう選び方をしています。

**三浦**：ではその荘園制は日本とヨーロッパではどう違うがありますか？

**城戸**：それは面白い問題だね。もちろん農業の仕組みが違うので、納付しているものが違う。日本は米だったり麦だったり布だったり。北イタリアの荘園制では、穀物と並んでオリーブオイルとワインがたくさん出てきます。果樹栽培が多いんですね。それから、農村の成り立ちやそこでの「社会的結合」という人と人の結びつきの形も違うところがあると思います。ただ、日本の荘園制との比較を考えると、同じところもあると思います。

**大学での勉強は正解が一つじゃない**

**三浦**：それでは、高校と大学の勉強の違いについて教えてください。

**城戸**：皆さんだったら毎日受験勉強に一生懸命ってい

うところですよ。朝は何時くらいからあるんですか？

**三浦・佐々木**：8時半くらいからです。

**城戸**：1日授業が終わったらホームルームやって宿題がどっさり出て？何をすると皆さんにとって勉強になるんですか？宿題が出たら練習問題を解いていくとか？

**三浦**：はい。予習したりとか。

**城戸**：予習したりとかね、復習もして。そうすると教科書に出てることをちゃんと理解して、問題を解けるように練習問題をして、英語だったら辞書を引いて単語覚えて文章の読解とか、そんな感じですよ。多分1番基本的なところは高校も大学も同じです。まず本とか論文を読む。そのときに著者が何を考えてるかを正確に理解しなくちゃいけないから、まず読んでその人の考えを知るようにする。教科書だったら、そこに書いてあることを理解して覚える。覚えて上手にその知識を整理する。ただ、高校だとここで止まっちゃうけど、大学での勉強はその先になります。大学での勉強は、正解が一つじゃないんです。

例えば、今イギリスはEUに加盟はしてるけど、通貨統合、つまりユーロには参加してないですよ。イギリスはまだ、ポンドっていう貨幣を使ってる。だけどフランスとかドイツとかイタリアとかEUの中でも通貨統合に参加してる国は、どこの国でも同じユーロを使ってる。こういう状況を見て、例えば三浦さんは、イギリスは今後も絶対ユーロには参加しないですよという意見で本を書く。佐々木さんは、イギリスもこ



れからユーロに参加するはずだっていう意見を持って本を書く。そうすると、1つのテーマについて複数の違う意見がある。まずその違いがわからないといけないんですね。こっちは、「イギリスはユーロに入らない」派、こっちは「イギリスもユーロに入る」派という意見の相違を理解して、議論を整理する。最終的な問題は、どちらの意見に自分は賛同するか、ですね。

そうすると次に、結論の基礎となるデータの違いに注目しないといけない。三浦さんはユーロの限界とか金融政策の失敗例とか見て、イギリスはこういうデメリットをすごく知ってるからユーロには絶対入らないと書く。佐々木さんの場合は、通貨統合が成功した後の良い影響のデータをいっぱい見て、いやEUの弱小国にはこういう利益があったよ、ドイツにある欧州中央銀行はユーロをこう維持しているよとか、ドルに対してユーロはどんどん強くなっているよといったデータに基づいて、イギリスもそうしたメリットを評価するはずと考えているとする。そうすると、どちらのデータに立脚する方がより正確な考察が得られるか、意見の基盤になるデータの比較検討と分析が必要になります。

その際すごく技術的なところ・・・例えばこっちの人のデータは2008年までの資料だけど、こっちは人は2010年の最新のデータをインターネットで調べて強調している、といった相違には注意が必要ですね。ユーロ参加派の人はユーロ推進国のドイツとフランスの見解に依拠してるけど、ユーロ不参加派の人は、ユーロがヨーロッパの外部からどう見えてるかに敏感で、アメリカとの比較データをたくさん使ってるっていった分析視角の違いも、大事になります。



三浦さん説と佐々木さん説を比較して、自分の考えを深める時に、その比較が全体の中でどういう意味を持つか振り返るために、続けてもう1つ別の視点からの勉強をした方がいいですね。自分

と同じようにこの問題に関心があって、しかし全く違った視角をもっている人の研究です。例えば、通貨統合は欧州連合の活動の一部に過ぎないからユーロを過大評価しないで、EUの平和共同体としての安全保障の機能を重視した方がいいという安部説があるとします。そうすると、ユーロの機能と効果をそもそも限定的にしか捉えていない人に反論する（自分の脳内です）ために、EUにおけるユーロの意味を再考しないといけない。その際、なぜEUは適用除外規定を作ったまで、イギリスとデンマークはユーロに参加しないという立場を認めているのか、ということも考え合わせることになります。自分のたてた問題自体を相対化することで、イギリスの金融戦略を理解したりEU自体の統合への強い意欲を確認したりして、比較だけの平板な考察を、徐々に深めていくことができる。

高校と大学の勉強の違いを簡潔に言えば、大学では教科書のような、そこに全ての問題と正解が書いてあるという本はないってことです。必ず1つのテーマにいくつもの意見がある。その、違いがあるっていうことを前提に勉強するってところが大学と高校の一番の違いじゃないかなと思います。でもそうするとみんなはやっぱり不安になっちゃうんですね。大学に入ってね。何を覚えればいいのか、何を試験に書いたら丸をもらえるんだらうとかね。すごく不安になっちゃって、高校までの勉強がちょっと懐かしいような気がするんだけど。

**安部**：あります。

**城戸**：ありますね。問題をたてたり比較したり分析したりデータとかを掘り下げるとかそういうこと全部が大学の勉強でね、どっちが正しいって結論を出すことも大事だけど、そこに行きつく過程の考えの方が大事だと思います。どちらが正解かという議論は、終わらないこともありますからね。

### 昭和の時代 — 地味だった学生生活

**佐々木**：では次に城戸先生個人についての質問をさせていただきます。城戸先生の学生時代について教えてください。

**安部**：具体的には高校と大学で。

**城戸**：具体的にどのようなことが？

**佐々木**：どのような過ごし方・・・勉強をよくしてた、みたいな感じのことです。

**三浦**：勉強以外のことでも。

**城戸**：そうですね・・・。私は転勤族の子供だったんで、小・中・高と引越しも多かったんですけど、ちょうど高校の時3年間は大分にいたんですよ。朝はそんなに早くはなかったけど帰りのホームルームの後、自主学习って言ってプリントが出て教室に残ってみんな教え合ったりしてましたよね。基本的には受験生として過ごした高校生だったなっていう感じですね。

**安部**：部活とかクラブとかは何か入ってなかったんですか？

**城戸**：運動が下手で体育会系じゃなくて。言うとお恥ずかしいんですけど文芸部と茶道部に入っていました。文化祭の前とかに一生懸命準備したり書いたりとかだけど、普通はあんまり残って練習とかはなくて。皆さんみたいに学校帰りにマック寄って行こう、みたいなものもない。帰りに肉まんを買い食いするぐらいがせいぜいだったような気がしますね（もちろんコンビニなど影も形もない時代なので、個人商店で買う）。昭和だったから仕方ないですね（笑）。そういう意味では皆さんの方が忙しいんじゃないかと思う。受験生もして部活もして日曜はみんなで買い物行きたい、みたいなのあるでしょ。映画行こうか、とか。映画はあんまり行かないのかな。カラオケ行くとかそんな感じかな。

**三浦・佐々木**：そうですね。

**城戸**：カラオケもない（笑）。まだカラオケボックスが発明されてないですよ（広まったのは1980年代半ば以降）。もちろん携帯もない、パソコンもない、ワープロすらないんですから（力説するも、高校生諸君はワープロを知らない様子）。文芸部の部誌とかいってもマス目のある印刷用紙に2Bの鉛筆で手書き。さ

すがに蠟半紙に鉄筆で書いてそれをローラーで刷るってあれよりはちょっと進んでました。でもコピーとかもまだそんなになくて。皆さんからしたら地味な、ほんとに受験ぐらいしかなかったなっていう感じですね。

大学行っても地味。今の大学生と違うのは、私の頃は大学入ったら2年生の前半まで、一般教養教育科目だけを1年半勉強する時代で、最初はとにかく広く浅くみたいなことをずっとやる時間が1年半くらいあったんですね。でも、受験勉強から、他学部の人と一緒に広く浅くの勉強ってことになる、まあ楽しい大学生活を送って遊びますよね（笑）。でもバイトもそんなに職種がなくて、家庭教師くらい。臨時にイベントの受付で電話番号をしてるとかですね。あんまりお金もなかったし普通に地味な生活してました。

### ダンスは実は体育会系

**三浦**：サークルとか何か入ってたんですか？

**城戸**：サークルはですね、これもちょっと昭和なんですけど舞踏研究部っていうのがあったんですが、わかります？武道じゃなくて踊りの方なんですけど。それで一体何のダンスかって言うと、今はあまりそういう風ではないので想像がつかないと思うんですけど。皆さんはダンスっていうと何を思い浮かべます？

**佐々木**：ヒップホップ・・・

**城戸**：それは昭和には無理（笑）。三浦さんはどうですか？

**三浦**：ダンス・・・。いつの時代ですか？



**城戸**：昭和（笑）。昭和54年から58年です。西暦でいうと1979年から83年ですね。生まれてないからしょうがないよね（笑）。

**三浦**：フラメンコ？

**城戸**：フラメンコもかっこいいなあ。

**安部**：社交ダンスとかそんな感じですか？

**城戸**：そう。それぞれ。男女で組んで踊るやつですね。ワルツとかタンゴとか。テニスとかそういうのは、高校までやってた人と全くの初心者とだったら全然サークルも違っちゃうし。じゃあみんなが大学からはじめるものにしようと思って。高校でできないものだったから憧れもあって、割と熱心に練習しましたね。

**安部**：今も結構踊ったりするんですか？

**城戸**：いやいや。もう体調が。体型が。やっぱり体力が。ダンスって実は体育会系なんで、1曲分普通の呼吸をしないで踊るような感じだし、とてもきついですね。面白いのは面白かったけど。

## 文学部から経済学部に編入

**安部**：そんな大学生活を送られた先生がなぜ大学の講師という仕事に就いたのかそのきっかけを教えてください。

**城戸**：そうですね。最初私は、文学部に入学したんです。文学部は最初学科が決まなくて。大分大学の経済学部も、入学後に自分の好きな勉強の分野を決めて学科が決まりますよね。そもそも大学の先生になろう、なれるということは全然考えてなくて。何の勉強をしたらいいかなっていうのが、第1段階でした。大学で講義を聴くうちに、この先生のこの講義面白いと思うなってというのが、だんだん増えてきて、前から好きだった歴史の方に進みたいと思いました。だからまず、好きな勉強を自分で選んだのが1つのきっかけです。皆さんも最初はぜひ、自分が面白いと思う勉強を

探してほしいですね。

3年生で西洋史研究室のゼミで勉強をして、もっと勉強を深めたいなって思ったのが2番目のステップ。大学院を受験できないだろうか、と迷い始めたのが3番目のステップです。ただ、大学院に行ったら先生になれる訳ではなく、先の見通しもないまま勉強をしたいから、大学院に挑戦したいなと思ったんですね。ほんとの話、入学してからあんまりにも勉強してなかったの、こんなじゃ心残り卒業できない・・・と思ったのも確かです。

その時に大きなきっかけがありました。文学部の西洋史じゃなくて、経済学部の西洋経済史の先生と出会いましたね。その先生の講義を聴かせてもらって、西洋経済史の大学院で勉強したいなと思って、そちらを受験することになりました。文学部を卒業して、編入試験を受けて経済学部の3学年に学士編入をしてから、経済学を勉強して院試の準備をして。進学できたら、後はやはり地味な（笑）大学院生生活でした。研究して、報告して、論文書いて、ポスト（研究職）があつたら応募するっていう形で先生になっていくんだけど、要は、先生になるために研究するんじゃないくて、勉強して論文書いてポストがあつたら応募して、僥倖で残れたという感じですかね。まず好きなことを勉強して、ものすごく幸運にもそれでお金がもらえるポストにつけたっていう感じです。



今でももちろんそうだけど大学のポストって多くありませんから。理系だと工学部で修士2年行って就職、企業に行くとか研究所に行くとか普通なんですね。けど文系の修士課程にいても、就職先の企業っていうのはそんなに多くない。経済学部は、まだある方ですね。マネージメントとかマーケティングとかコンサルティングとか、そういう専門のところに行くとか企業の研究所職もありますから。

## 勉強するなら絶対イタリア！

**佐々木**：じゃあ今やっている分野を研究しようと思ったのも好きだからですか？

**城戸**：そうです。スキの一念です。恩師の専門地域は、今のベルギーあたりでね、地域が北の方なの。でも私は勉強するなら絶対イタリア！と思ってて。そこはいろいろ先生とも話をしたんですけど、最終的にやってみなさいっていうことで。

**安部**：なんでイタリアなんですか？

**城戸**：そこはやっぱりラテンの方が。

**安部**：ダンスのせいですか？

**城戸**：それもあるし、文化的にも歴史的にもイタリア史はすごく複雑で、面倒なんです（面倒なことは好きです）。イタリア語も面白かったし綺麗だと思ったし。なんとなく地中海に近いところでにぎやかに生きてる方がよさそうに見えてですね。ミーハーにルネサンス文化とかその辺から入ったせいなのは、確かなんですけど。

## イギリスと大陸ヨーロッパは異質

**三浦**：ヨーロッパに行かれたことはありますか？

**城戸**：それはもちろん。先に聞きたいんだけど皆さんにとってヨーロッパっていったら、どこがヨーロッパの中心点？

**三浦・佐々木**：イギリスかなあ。

**城戸**：そうでしょ！そういう意味ではですね、高校から大学に入ってヨーロッパのことやるよってイタリアっていったらそんな端っこの方って感じでみんな言うんですよ。でもヨーロッパの地図からいくとイギリスの方が端っこだし。



**安部**：端っこですよ。

**城戸**：うん。イギリスと、コンチネンタルっていった大陸ヨーロッパとは実はあんまり仲がよくなかったりするし。私にとってはイギリスはヨーロッパじゃない。それを言うとイギリスが好きな人に怒られるので、言わないんですが。だからイギリスはあんまり行ったことがないんです。旅行で1回行って学会で1回行ったけど、基本的には大陸の方ですね。恩師のご尽力で、出身大学がベルギーの大学と交流協定を結んでくれてまして、最初に行ったのがベルギーでした。ベルギーのルーヴァン・カトリック大学に行きました。佐々木さんどうでしょう、ベルギーって何語しゃべってるかってパッとわかります？

**佐々木**：英語・・・とかですかね。

**城戸**：ではなくて。三浦さんはどう？ベルギーのイメージ何があります？

**三浦**：ドイツ語？

**城戸**：ドイツ語圏もある。ベルギーって割と小さい国なんだけど複雑で、南半分はフランス語圏で北半分はオランダ語圏（フラマン語）。フランス語とオランダ語（フラマン語）とそしてドイツ語を話すところがあって。ブリュッセルはEUの本拠地があるから、英語は当然で4ヶ国語何なく使う人がいるっていう感じ。留学した大学のあるルーヴァン・ラ・ヌーヴは、オランダ語圏にある伝統あるレウヴェン大学の姉妹校のカトリック・ルーヴァン大学の建学と共にできた大学都市で、とても斬新な建設都市でした。留学生もとても多い国際都市で、神学部には南米のカトリック国からたくさんの方が勉強に来ていましたね。拙いフランス語で、エクアドルの人とかチリの人とかと話したのも良い思い出です。古き良きヨーロッパに憧れて留学したから、新しい大学都市での生活は少し肩すかしてましたが、そこでしか出会えない人たちと知り合えて、その文化を知ることができて本当に良かった。

イタリアはまたイタリアで、時間内に終われないくらい多くの体験があります。

## 南イタリアは危険？

**安部**：イタリアって南部と北部で結構治安が違うというか貧富の差があるってよく聞くんですけど、実際はどうなんですか？

**城戸**：それはほんとにあると思います。政治的にも歴史的な成り立ちも違いますし。私は北の方の研究してるんで、行くときもミラノの空港に着いて、あとは鉄道で動くだけです。ローマじゃない。行き先の空港からして違います。でも大学院生の時、夏休みに、2週間くらいのイタリア語のサマー・コースに行ったことがありました。そのときはフィレンツェに行ったんですね。そのあと、安いユーレイルパスを買ってバックパッカーになって、イタリアの南部に行ったんですよ。そのときの印象しかないんですけど、やっぱり全然街が違う感じでした。私そのとき頑張って、シチーリア島の州都のパレルモに行ったんですよ。フィレンツェで、このサマースクール終わったらどうするって、みんな休みの予定を話し合っているから、私はユーレイルパスのチケットはあるから鉄道でパレルモまで行きたいって言ったらイタリア人が真剣な顔してね、2、3日前に観光客が撃たれてるぞ、危ないからよせって言うんですよ。

**全員**：ええ～！！

**城戸**：うーん、でも夜行寝台列車に乗って、無理して行ったんですけどね。荷物をチェーン錠で寝台の柵に留めつけてね。本当に気をつけないと危ないっていうのは、宿泊先のホテルの人も言うんですよ、出かけよ



うと錠を預けにいったらね。ポシェットを斜めがけにして貴重品なんかを持ってるじゃないですか。そうすると背後からバイクでひたたくりがくるわけですよ。ポシェットの紐を引っ張

って、引き倒されて引き摺られるから、危ない、よせって、地元のホテルのフロントの人が言うわけ。何も持つなって。カメラも荷物も。仕方がないから小さい貴重品袋を首から提げて上からTシャツ着て。コーヒー1杯飲むのにお金払うのも、Tシャツの内側からズルズルと袋を引っ張り出して（笑）。観光客にそういうことを普通に言うくらい危なかったのかな。あと夜はもう出るなって。でも面白かったですよ。聞けばいろいろ親切だったしね、イタリア語でも。イタリア人って外国人が下手なイタリア語で喋っても怒らないんですよ。商業の国だったし、どこの国の人もいろいろいるから。その代わりにこっちがわからなくてもお構いなしに何か喋ってる（笑）。道聞いてすごく親切なんだけど、言ってることが全然わかんないっていうことはありました。でも楽しくて、もっと勉強したくなりました。

## 若者や女性の働き方に興味がある

**三浦**：では最近どんなニュースに関心をお持ちですか？

**城戸**：若年失業率問題とか派遣とかニートとか。働き方が変わってきて、若い人は随分損してつらいんじゃないかってずっと関心がありますね。若者の雇用問題っていうのは、就職再支援や再教育とあわせて、働き方を社会全体で変えないといけないんじゃないかなと思って。特に女性労働力はね、これから必要になるだろうに、従来女性が担っていた子育て・介護をどうするか。周りの人や家族の手助けがあって私はやっと子育てしてきたんで、ゼミの女子学生と話すときも、就職して結婚して子供が生まれても続けられるような仕事の仕方してほしいなと思うんだけど、大変かなあとかね。それはすごく気になります。

## ベランダに花を咲かせたい

**佐々木**：では趣味について教えてください。

**城戸**：この頃なんにもなくて恥ずかしいんですけど、3年くらい前は頑張ってベランダの鉢植えに作って



水やったりしてました。でも忙しさの余り、全部枯らしちゃって。もう一度、鉢植えで花を咲かせたいですね。安部さん趣味って言ったら何？

**安部**：僕ですか？何ですかね。そう聞かれたら困りますよね。

**城戸**：何かかっこよく趣味を。

**安部**：かっこよく趣味ですか？

**城戸**：勉強が趣味ですとかさ。

**三浦・佐々木**：うん、かっこいい。

**安部**：なるほど。勉強はもちろんなんですけど、色々な人の考えが載った本とか読むのが好きです。マンガとかも読みますし。ま、マンガですね。メインは。



**城戸**：メインはマンガ。ジャンプですか？

**安部**：ジャンプですね。昔から好きです。就活でインターンとか行くんで趣味とかやっぱ聞かれるんですけど困るんですよ、いつも。

**城戸**：聞かれるよね。何を期待してるんだろうって思わない？企業の人はね。

**安部**：そうなんですよ。何を言ったら正解かなあとかって。

**城戸**：好きな音楽聴いたりマンガはこれを読むとか、作家だったらこの人が好きとかいうのはあるんだけど、そういうのは普通に生活の一部で、趣味かなあつ

て感じるよね。

どうですか？何を聴いたり何を読んだりしてますか？誰が好き？

**佐々木**：EXILEです。明日行きます。

**安部**：行くの？へえ～！（チケット）とれたんだ。

**城戸**：コンサートあるんだ（コンサートがあることすら、知らなかった模様）。

**三浦・佐々木**：大分であります。大分銀行ドームで。

**城戸**：三浦さんも行くの？

**三浦**：お姉ちゃんが行きます。学校でも結構まわりが行くんですよ。すごいです。

**城戸**：チケットとれた？

**佐々木**：とれました。友だちからゆずってもらって。

**城戸**：すごい。こういうのはいいよね。特別な、お祭りって感じがする。楽しんでください。そういうのでいうんだったら私は9月にジゼルを見に行きます（笑）。東京バレエ団が来るんでそれを観に行きます。上野水香さんっていう有名な人が来るんで。

**安部**：へえ～。いいちこホールであるんですか？

**城戸**：そうそう。楽しみです。あんまりヨーロッパと関係ないけど。

### 知れば知るほど未知の境界線が伸びる

**安部**：では最後に、このインタビューの記事を読む高校生と大学生に向けてメッセージがあればお願いします。

**城戸**：はい。皆さん、すごく真剣に進路や就職、自分の将来の設計を考えているところですね。大事なことです。高校生の場合は、就職か進学か。進学するなら、

大学、学部はどこにしようか。大学生だと、卒業、就職が1つ大きな関門ですね。

そういうときに目標に向かって、計画をたてて実行するのは大事だと思います。ただ人生、思ったように行かないことの方も多い。完璧に計画をたてても、一つ手前で曲がったな、みたいなものがあるんですよ。だから学校では、将来就職に有利なこと「だけ」を選んで計画するんじゃなくて、やっぱり好きなことを夢中で勉強するのが一番簡単だと思います。計画を立てて実行すること自体は大事ですが、視野が狭いと予定通りにいかないことにストレスを感じすぎてしまいます。自分の興味と関心のアンテナを信じて、自分の好きなことを自発的に進めていくだけの根気と勇気があったら、最初の計算通りでなくても自分で納得して修正できますから。それに、高校でも大学でも、勉強して頑張っていると、必ず誰かが見ている、応援してくれたり励ましてくれたり、助言してくれたりします。人と会うことによって、自分で思った以上に力が出る場合がありますよ。

あなたが損得抜きに一生懸命勉強して、つかみとれるだけのものをつかみとっていたら、それは将来どこかであなたを支えてくれると思います。どんなに一生懸命「知識」を詰め込んでいても、社会に出たら、学校で習ってない新しい「問題」にどんどん対応しながら仕事しなきゃいけないから、大学の勉強は無駄だという言い方をする人が、かつていました。確かに知識だけに限れば、どんどん社会で更新しながら生きていかないとはいけません。だけどね、そもそも何が問題なのか理解する力、場合によっては問題自体を発見する力、解決策を新しく構想する力、そして自分の考えを説明して周囲の理解と協力を得る提案する力など、仕事をするために必要な複合的な能力は、高校や大学で自発的に勉強して知識を身につける机の上で、ずいぶん鍛えられていきます。

その時々テーマは、たとえば多国籍企業の自動車会社の資本提携の形をまとめて試験勉強をしたり、日本の年金の制度設計の長所短所を分析して新しい方向性をゼミで報告したり、EU加盟国の多文化共生社会の問題点を卒業論文として書いたり、たとえ就職先ですぐに出てくる問題ではないにせよ、深く考え調べて結論を出す勉強の仕方、考える方法が分かってくるといって、大事なんですよ。

皆さん指で、輪っかを作ってみて。この輪っかで囲んだ十円玉みたいな円があるじゃないですか。皆さん



の知識の量が今このくらいの円だとしますよね。これがどんどん大きくなって、こう両腕で抱え込むくらいの知識が増えるとするよね。知識量はこういうふうに増える。これだけ知識が増えると、すごく成長したなって思えるよね。ただ実はですね、この指で作った円の円周、これは、皆さんのまだ知らない知識の広がり、皆さんが知ったところの境界線なんです。最初指で作った小さい輪っかだと、知識量も少ないけれど、この「知らない世界」との境界線が短い。自分の知らないところがこれだけあるなあという認識もわずかなんです。ところが両腕で抱えるほどたくさんの知識を得ると、皆さんがまだ知らないところ、自分が今知ってるところの境界線も長くなっちゃう。つまり、知識量が少しの時は、自分がいかにものを知らないかという自覚も少ない。知識が増えれば増えるほど、未知の世界との境界線が長くなって、「私はまだ、さらにこれだけのことが分かっていないんだ、知らないんだ」という自覚が深まるんです。するとそれは怖いんですよ、ちょっとね。これだけ全部知ったら終わりじゃなくて知れば知るほど知らない世界との境界が長くなっていく。まだ知らない、まだ知らないっていうのが増えちゃうんですね。



全員：なるほど～。

城戸：そう。ある意味では勉強には覚悟がいります。怖いんですよ。いつまでたっても知らないことがどんどん増えていく。円周が長く伸びて、自分が囲い込んで知ってるところも増えるんだけど。

**安部**：ああ、深いですね。

**城戸**：そうなんです。だから勉強ってそういう不安に耐えながら、でも自分の中に貯め込んでいくところも必ずあるっていう両面があるんです。というわけで未知の境界線が増えていくっていうことに臆せず、頑張っていこうみたいな感じですね。覚悟しようというか。

**全員**：すごい。

**城戸**：それは怖いけど、学校で勉強するときも社会で勉強するときも、とてもワクワクすることなので頑張っている。

**全員**：どうもありがとうございました。

**安部**：すごく楽しかったです。

### キャンパスレポーターを終えて

#### 大分大学経済学部3年 安部 泰記

私は、今回高校生の佐々木さんや三浦さんの補助ができればという思いで、レポーターに臨んだのですが、私自身様々な発見や勉強をさせていただきました。

まず、「城戸先生のお話」での発見です。私は大分大学に居ながら、城戸先生とお話しすることは初めてだったのですが、気さくで大変話しやすい先生だったため、自分の疑問に思ったことを素直に質問することが出来ました。また、私は先生の専門分野であるヨーロッパの歴史に関して、あまり知識を持ち合わせていなかったのですが、分かりやすく丁寧に教えて頂いたため、興味が出て実際にヨーロッパに行き先生がおっしゃっていたことを直に見て学びたいという気持ちになりました。

次に、「高校生の佐々木さん、三浦さんの一生懸命さ」を見て勉強になりました。先生にインタビューに行く前に事前打ち合わせを3人で行ったのですが、自ら進んで「こういった質問をしたい」「この質問とこの質問は一緒に言うてはどうか」など積極的に意見を出してくれ助かりました。またその反面、自分も負けていけないなという気持ちになりました。

このキャンパスレポーターは、大分大学に興味のある高校生はもちろん、大分大学に既に在学している学生にも、新しい発見や勉強を提供してくれる制度だと思います。今後も継続すること、また機会があれば私自身がもう一度参加させて頂けることを望みます。

#### 大分鶴崎高校3年 佐々木 愛美

今回、キャンパスレポーターを受けてとてもよい経験となりました。どのようなことをするのか最初はとても不安でしたが、大学生の安部さんがリードしてくださったのでとてもスムーズに質問することができました。今回レポートさせていただいた城戸先生はEUの、主にイタリアの歴史の研究がご専門なので不安でしたが、とても分かりやすく面白く話して下さいました。

ゼミでのお話では、自分の今まで知らなかった世界が開けたような気がして、ヨーロッパに対する興味が湧いてきました。また、大学時代に留学したお話がとてもリアルで、イタリアで本当に貧富の差があったことや素敵な場所だけではないことが良く理解できました。

また、高校と大学での勉強の違いにも驚きました。大学では多くのことを学んでも社会に出てどう活かすかは自分次第であるということにすごく納得しました。

最後に、先生がお話してくれた、「知識が増えることで逆に自分の知らないこともたくさん見えてくる」ということには怖いと感じると同時に素晴らしいことだと思いました。

学ぶということは学ぶだけで終わらせるのではなく、将来につながっていくように努力することが大事であるということを感じました。

今回お話していただいたことを胸に刻んだ上でこれから大学受験に向けて頑張っていこうと思います。参加させていただきありがとうございました。

#### 大分鶴崎高校3年 三浦 早央里

初めて大学の先生の生の声をお聞きして、「なるほど」と思うことが沢山ありました。まず、大学と高校の勉強の違いについてです。高校では教科書の内容を

覚えて答えを導き出します。一方大学では自分の持っている知識を膨らませながら答えを導き出していくが、答えが一つではない、ということに驚きました。

城戸先生のゼミでの、EUの現在の問題点やEUに加盟している国についての研究のお話をお聞きして、日本の問題だけでなく世界で何が起きているかに目を向けることはとても大切だと思いました。

また、先生のお話の中で、「自分の好きなことに熱意を持って取り組んでいれば、周りの人から助けられたりしながら、やがて自分の力が発揮出来ることもある」ということをお聞きして勇気が出てきました。これから肝に銘じて頑張っていこうと思いました。

今日一緒にインタビューをしてくれた大学生の安部さんは、昨年学問探検ゼミで一緒にゼミを受けたのでとても話しやすく、緊張を和らげることができました。「キャンパスレポーター」で学んだことを今後の生活の中で役立てていきたいです。今日はこのような企画に参加させていただき、ありがとうございました。



経済学部3年  
安部 泰記さん

大分鶴崎高校3年  
佐々木 愛美さん

大分鶴崎高校3年  
三浦 早央里さん

インタビュー実施日 2010年8月27日